

# 障がい者の豊かな地域生活 の継続を目指して 『ライフサイクル支援』への挑戦

## 活動の原点

私たちNPO法人家族支援フォーラムは、知的障がいや発達障がいの子どもや兄弟がいる家族が集まって作った法人です。「今の福祉で、自分の子どもや兄弟は幸せになれるのか？」という当事者家族としての不安が活動の原点でした。

今でも様々な理由から施設入所を必要とする人がいます。しかし、見守りという名で24時間の監視を受ける生活です。「どんなきれいな環境で安全に暮らせるとしても、私たちは嫌だし耐えられない。」「だから自分の家族を施設には入れたくない。」「障がい者も地域で豊かに生活できる環境が欲しい。」「そんな想いを実現するため、平成15年12月、地域生活支援センター夢ポケットが誕生しました。

## 豊かな地域生活実現のための 5つのポイント

私たちは、障がいのある人が豊かな地域生活を実現するためには、次の5つのポイントを、本人が決めて実行することが必要

だと考えています。

- ① 衣食住の「生活」基盤を整えること。
- ② 「働く」という基盤を整えること。
- ③ 「楽しむ」という基盤を整えること。
- ④ 「生活」「働く」「楽しむ」のバランスを取ること。
- ⑤ ④の状態を長期間継続させること。

① 衣食住の「生活」基盤を整えること。  
これについては多くの説明は必要無いと思います。特に住む場所と3食の確保は、命の尊厳性を守る最低限の保障といえるものです。



夢家



ハッピークリーン

感謝されたり、仲間から褒められたりといった経験を積むことができず、結果として有用感や自己肯定感を持ちにくくなります。この感覚を身に付けるには、仕事等の社会的役割を自ら実践していくことが最も効果的です。  
私たちが障がいのある人の働く場として運営しているのは、街のうどん屋さん「めん処矢磨樹姫原店」、愛



NPO 法人  
家族支援フォーラム  
地域生活支援センター  
夢ポケット  
理事長

米田 順哉  
(松山市)

私たちは、一軒家やマンションを賃借して、5か所のグループホーム、ケアホームを運営しています。

② 「働く」という基盤を整えること。

これには、2つの意味合いがあります。1つは、生活のためにお金を稼ぐという経済的な側面ですが、ここではもう1つの意味合いを強調したいと思います。それは、自分が誰かに必要とされているという有用感、自己肯定感を育む、という側面です。知的障がいや発達障がいを持つて生まれた人は、生まれながらの障がいのため必然的に過保護な環境で育ちます。このため人から

## 障がい者にやさしいまちづくり

### 夢の宅配便



媛県庁の食事が出来るカフェーゆるり茶屋夢家」、愛媛県総合運動公園のレストハウス「YUMEXA」、道後公園、八坂公園、総合

運動公園、コンビニ、マンションなどの清掃を請け負う「ハッピークリーン」、産直野菜等の宅配を行う「夢の宅配便」、えひめ文化健康センターで産直野菜やお菓子などの販売を行う「夢まーけっと」などです。

これらは全てお客様と交流する、又は誰かから常に見られることを前提とした仕事です。このようにオープン化された仕事では、お客様や地域の方とトラブルが起きたり、ご迷惑をおかけすることも実際多いです。しかし、それ以上に「ありがたい」、「おもしろかったよ」、「頑張ってるね」といったうれしい声かけをしていただいて、メンバーたちは認めてもらうことの喜びや、必要とされる喜びを満喫しています。

### ③「楽しむ」という星盤を整えること。

「楽しむ」は、現在の福祉制度の中では最も欠落している視点だと思います。人間の暮らしはただ食べれば良い、仕事をすれば良いというものではありません。仕事を終わった後の時間を楽しむ、休日の時間を楽

しむといった余暇時間の充実、人間が人間らしく生きるために欠かせない条件だと思います。

また、私たちは恋愛や結婚もこの「楽しむ」という枠の中で考えています。今私たちが関わっている利用者に、結婚を前提につきあっているカップルがいます。ある時「わたしたちは将来、結婚を考えているんだけど、不安もあるので練習で一緒に住みたい」という申し出がありました。同棲用グループホームなんて聞いたこともないで、法人内ですいぶん議論しましたが、「障がいがあるから同棲はダメだ」という理屈はない」という結論に達し今年の5月に同棲用グループホームがスタートしました。二人は今幸せいっぱい暮らしています。

### ④「生活」「働く」「楽しむ」のバランスを取ること。

いわゆるワークライフバランスです。特に「楽しむ」のバランスが悪いと「生活」や「働く」まで崩れます。これまで「障がいがある人の」という書き方を

してきましたが、障がいがあっても無くとも、人間にとつて豊かな生活を送るための条件は変わらないのではないかと思います。



夢まーけっと



飲み会

⑤ ④の状態を長期間継続させること。

人間の生活は、「今」の連続です。色々な場面が連鎖と繋がって人生という時間軸になります。今実現した豊かな地域生活は、5年後も10年後も20年後も継続していなければ意味がないということです。

### ライフサイクル支援を通して見えてくるもの

先に書いた①～⑤の内容を障がいのある人と共に考え、彼らが豊かな地域生活を継続的に実現するお手伝いをする、それが私たちの追求するライフサイクル支援です。

ライフサイクル支援が進めば、たくさん障がい者が地域で暮らせるようになります。障がい者と健常者がそこでお互いに知り合い、不完全さと多様性をお互いに認め合えるようになれば、誰にとつても住みやすい社会が出来るようになります。あまり大それたことは出来ませんが、まずは目の前にいる利用者の皆さんにしっかりと向き合い、ライフサイクル支援を着実に実践していきたいと思えます。